

The Good News



人生探求

聖書信仰の基礎の学び



1. 起源の足跡	3
神は全ての命をスタートさせた	
2. 私たちの知識に基づくものはどこにあるでしょう？	4
神はそれを聖書の中で明らかにしています	
3. 目にはみえないけど、認識はできる？	6
私たちの創造者である神は自己紹介をします。	
4. 私たちの最大の規則	8
人間はすばらしく造られた	
5. この世で最もひどい出来事	10
人が神に反抗する	
6. 絶望的な最後	11
人は罪の奴隷です	
7. 神のいない未来	13
人間は神がいなければ、地獄の道へ進む	
8. 信仰深さだけでは十分ではありません	15
イエス・キリストを信じるのが大切なのです	
9. 神は私たちとコンタクトをとります	16
イエス・キリストは唯一の存在である	
10. 神の愛は見えるようになる	18
イエス・キリストは私たちに全てを与える	
11. 私の決意	19
救われる	
12. 新しい人生を楽しむ	21
クリスチャンとしての最初の一步	
刊記	24

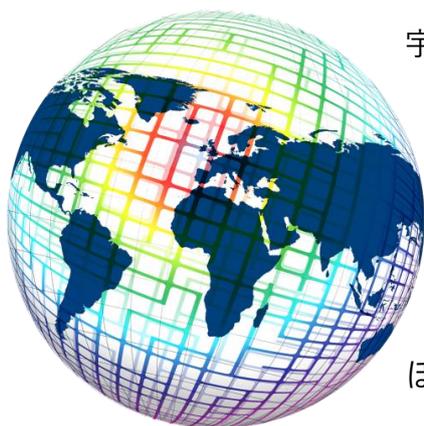
1. 起源の足跡

神は全ての命をスタートさせた

よくある質問：神は存在するの？

これについてたくさんの方が知りたいと思っています。もし神が存在しないなら、神のことを知ろうとする必要はありません。聖書には：**信仰がなければ、神様に喜ばれることはできません。神様のもとに来ようとする人はだれでも、神さまの存在と、熱心に神様を求めれば必ず報いられることとを、信じなければなりません。**（ヘブル人への手紙 11 章 6 節）神の存在を数学的に科学的証明することは不可能ですが、神について私たちが知っていることは多くあります。

宇宙



宇宙の存在を偶然の結果として、沢山の問題を提議し論じていますが、そのどれにも正確な答えはみつけれられていません。ビッグバンの理論も同様です。ビッグバンのきっかけになる最初の物質はどこから来たのでしょうか？ 進化論は広く知られていますが、ビッグバン同様に、本当に正しいと言い切れる理論はまだ発見されていません。何もなくて、どのようにして、この地球上で信じられないほど複雑に生物形態が発達することができるのでしょうか？

答えは聖書の中で説明されています。

初めに、神が天地を創造した。（創世記 1 章 1 節）私たちの世界は偶然の産物ではなく、常にある素晴らしいものたちが出会った幸福なものなのです。我々は、この創造に関して大きな知性がなければならぬことを認めます。**信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが目に見えるからできたのではないことを悟るのです。**（ヘブル人への手紙 11 章 3 節）創造は、神にそれらの始めと起源があります。**まことに、主が仰せられると、そのようになり、主が命じられると、それは堅く立つ。**（詩篇 33 篇 9 節）

驚くべき自然と自然の法則の構成秩序。

遠い宇宙から最も小さい微生物まで全てが神の意思のもとにあります。偶然によるものなどなく、そこには創造者の存在が示されています。この世界とそこにあるすべてのものをお造りになった神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。（使徒の働き 17 章 24 節）

人は神様が創造して造られたもの

神である主は土地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。そこで人は生きものになった。（創世記 1.22-2.7）動物と対照的に、人は「個性」というものを持ちます。人は思考力、そして感情と欲求があります。人には良心があり、良いものと悪いものを合理的に決定をすることができます。人は、愛と情熱があります。しかし、とりわけ、人には神への深いあこがれがあります。この期待はどこから来たのか。偶然なことがないし、進化したこともない。人は偶然の産物ではありません。ダビデ王は多くの賛美歌を書きました。このように：私は感謝します。あなたは私に、奇（く）しいことをなさって恐ろしいほどです。私のたましいはそれをよく知っています。（詩篇 139 章 14 節）

2. 私たちの知識に基づくものはどこにあるでしょう？ 神はそれを聖書の中で明らかにしています。

神について知ることに必要な情報

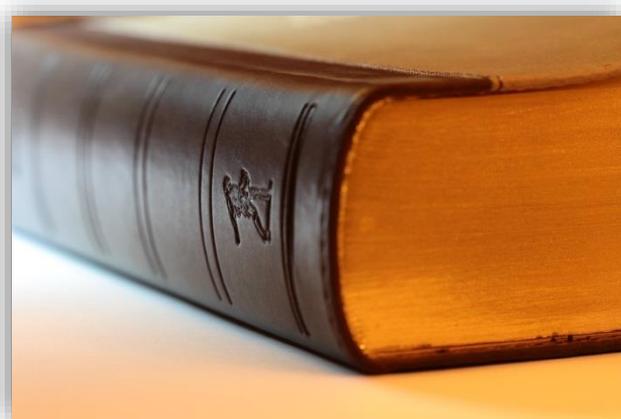
聖書の中のヨブ記を書いたヨブという男は、その中でこう尋ねられました。
あなたは神の深さをみぬくことができようか。全能者の極限を見つけることができようか。（ヨブ記 11 章 7 節）彼はこれになんと答えるべきなのでしょう？ 私たちは神の存在を理解できることができませんので神様が自分自信を人間に現れる必要があります。

大自然をとおして

昼は昼へ、話を伝え、夜は夜へ、知識を示す。（詩篇 19 章 2 節）宇宙で素晴らしい神がつくられた秩序のなかにあり、彼のサイズと命令、彼の多様性と良きの宇宙だけでも、なんとか神の偉大さを明らかにします。我々の地球の創造においても、神は彼の偉大さ、我々の理解を超える突出した知恵と想像力を示しています。世界が創造されてからこのかた、人々は、天地や神様がお造りになった全てのものを見て、神様の存在と、その偉大な永遠の力をはっきり知っていました。ですから、彼らには弁解の余地がないのです。（ローマ人への手紙 1 章 20 節）

人の心に語りかける神

コミュニケーションは言葉によって生かされる。神は幾人かにそれをお話されています。なぜなら、聖書にある預言者のことばは、預言者がかってに考え出したものではないからです。それは、これら神様を敬う人の心に住まれる精霊様がお授けになった、混じりけのない神様からのことばなのです。（第二ペテロの手紙1章21節）他のいかなる文芸作品でも、少し先の未来に起こることを明確そして詳細に語っているものはありません。我々がイエス・キリストの出身地または彼の後の磔の詳細だけについて考えてみても、これは偶然ではありえません。神の、ご計画は聖書全体の中であきらかになります。全体が神様の靈感によって書かれた聖書は、何が心理であり、何が悪であるかを良く教えてくれます。また、私たちの生活をまっすひにし、正しいことを行う力を与えてくれます。（第二テモテへの手紙3章16節）



これまでのいかなる本も、このように人生をも変える力は持ち合わせていなかった

聖書特定の特徴は、人々の人生の中でその影響が現れることです。私たちは、神様に感謝せずにはおられません。それは、私たちが伝道した時、あなたがたはそのことばを、ただ人間の口から出たものと見なさず、神様のことばとして聞いてくれたからです。これは

事実、神様のことばであって、信じる者の生活を一変させるのです。（第一テサロニケへの手紙2章13節）数百万の人々が、個人の経験から千年以上前のことについて証言しました。主の戒めは正しくて、人の心を喜ばせ、主の仰せはきよくて、人の目を明るくする。（詩篇19章8節）

神がなんであるか知りたい人は、神の言葉を信じ聖書を読むことです。聖書の中で、神は私たちに期待することを正確に知らせてきます。

3. 目にはみえないけど、認識はできる？

私たちの創造者である神は自己紹介をします。

私たち誰もが神に対して個々のイメージをもっています。幾人かは、長い白いあごひげのある温厚なおじいちゃんのように考え、また別の幾人かは天国にいる偉大な警察官のように考えます。その他では、神の姿は明白ではなく、何か想像を超えるものとして考えています。結局、神についての正しい神観が神ご自身のみをもっています。以下の例は、神が自身について聖書の中でどのように明らかにしたかについて述べます。



神は想像以上に偉大である。

神においては私たちがまったく理解できないことがたくさんあります。神は大いなる事をなして測り知れず、その奇(くす)しいみわざは数えきれない。(ヨブ記5章9節) 神は、私たちの手の届く存在ではありません。人間のもつ理性(思慮分別)と思考では神に触れることはできません。これは驚くことではありません。もし、私たちが神に触れその存在を完全に理解・認識できるのであれば、彼は神

ではないでしょう。私たちが見つけることのできない全能者は、力とさばきにすぐれた方。義に富み、苦しめることをしない。だから、人々は神を恐れなければならない。神は心のごかしい者を決して顧みない。(ヨブ記37章23-24節)

神はパーソナリティーをもっていらっしゃる

神は、物や力、もしくは概念(理念・思想)、更には、天にいる「親切な人」もしくは何でもできる「スーパーマン」のようなものではありません。神は、考え、感情、願いをもって私たちに接してくださいます。そして、神は、しかし、主はまことの神、生ける神、とこしえの王。(エレミヤ書10章10節)

神は永遠です。

神には最初も終わりもありません。これは聖書の言葉で表されます: 山々が生まれる前から、あなたが地と世界とを生み出す前から、まことに、とこしえからとこしえまであなたは神です。(詩篇90章,2節) 神が存在しない時間は、今までもこれからありません。神様が自己紹介をする時こう発言しました。今も昔も存在し、やがて来られる全能の主なる神が、こう言われます。わたしは、あらゆることの初めであり、終わりである。(ヨハネの黙示録1章,8節)

そして神は永久に変わることはありません。イエス・キリストは、昨日も今日も、いつまでも変わることがありません（ヘブル人への手紙 13 章 8 節）昔、神の声が聞こえていたときのように、今でもそしてこの先も神はそばにいます。

神は完全なものです。

どの生きものも他の生きものに依存して生きています。この状況と結果を神に当てはめてみても、神は神の創造に関係なく、完全に独立しています。

また人は、この方の必要を満たすこともできません。第一、この方には、必要なものなど何ともありません。かえって、すべての人にいのちを与え、必要なものは何でも十分に与えてくださるのです。（使徒の働き 17 章 25 節）



神は公平です。

聖書の中で：それゆえ、主はあなたがたに恵もうと待っておられ、あなたがたをあわれもうと立ち上がられる。主は正義の神であるからだ。（イザヤ書 30 章 18 節）しかし、神は私たちの創造者そして扶養者というだけではなく、裁判官でもあります。雲と暗やみが主を取り囲み、義とさばきが御座の基である。（詩篇 97 章,2 節）神は報いそして

処罰する時間と永遠 完全と彼は報いて、完璧で取り消せない裁判官と、時間と永遠に罰します。

神は聖なる御方です。

だれかあなたのような方あるでしょうか。だれが、あなたのように、聖であって、力強く、たたえられつつ恐れられ、くすしいわざを行うことができますでしょうか。（出エジプト記 15 章 1 1 節）神の神聖さに値するものは他にはありません。主のように聖なる方はありません。あなたに並ぶ者はないからです。私たちの神のような岩はありません。（第一サムエル記 2 章,2 節）神は、間違いもしなければ、弱いところもない完全な方です。そして、この神聖な神は、私たちに私たちもまた神聖であるように求めます。神の私たちへの要求は彼の本である聖書に書かれています。主みずから、私はきよい者であるから、あなたがたも、きよくなければならないと言われました。（第一ペテロの手紙 1 章,16 節）

神は全知です。

神の知識は完璧です。神様はすべての人の心を、その人がどこにしようと、探り知るお方です。神様に造られたもので、その目から隠れおおせるものは、一つもありません。今も生きて、すべてを見抜かれる神様の前に、裸のままさらけ出されているのです。私たちはこの方に対して、自分のした、いっさいのことを、弁明しなければなりません。(ヘブル人への手紙4章13節) 神は現在も過去も未来も全て知っています。そして私たちの全ての考え、言葉、言動の全てを知っています。神の知恵(思慮)は完璧で、私たちが理解できる域を超えています。ああ、なんとすばらしい神様を、私たちは信じていることでしょうか。神様の知恵と知識と富は、なんと偉大なことでしょうか。神様の取り決めと方法とを理解することなど、とうていできません。(ローマ人への手紙11章33節)

神は全能です。

見よ。私は、すべての肉なる者の神、主である。私にとってできないことが一つでもあろうか。(エレミヤ書32章,27節) しかしそれは、神が全てをすることが出来るということではありません。例えば、神は嘘をつくことができません。そして自分自身に対して不誠実になることもできません。彼は間違いを犯すことも罪を犯すことも自分自身を断つことも出来ません。しかし、神は神の存在によってしたいことを全てすることができます。

神は愛である。

これは間違いなく、一番素晴らしいことで、一番大切なことです。実に神は、ひとり子をさえ惜しまず与えるほどに、世を愛してくださいました。それは、神の御子を信じる者が、だれ一人滅びず、永遠のいのちを得るためです。(ヨハネの福音書3章16節) 神の息子、彼は彼の人生を私たちのために与えました。彼自身の人生を私たちのために捧げるということは、何によってもその価値をたとえることはできません。これは愛を表すの最大の形です。彼の愛はただ理論ではなく具体的な行動に表れてきた愛のです。

4. 私たちの最大の規則

人間はすばらしく造られた

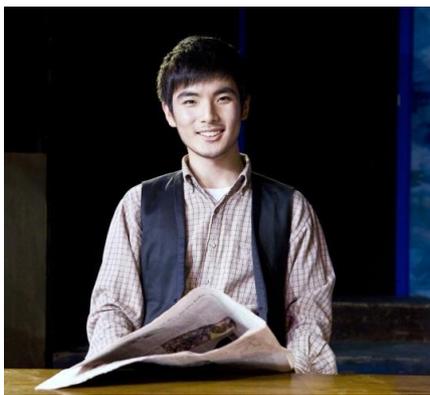
私たちは人生の意義を探している。

なぜ私たちは存在しているのでしょうか? どこから来たのでしょうか? 私たちの人生に目的はありますか? 最初に私たちは私たちが意味もなくただ存在しているのではないことをしります。私たちは何かの物が偶然に集まって出来たものではありません。

聖書は私たちに語っています。人間は偶然の産物ではなく、全知全能の神によって特別に創造されたものなのです。神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。（創世記1章27節）私たちは太陽や月、星ぼしに比べ、自分たちを小さい存在だと感じます。しかし、神は私たちに特別で独特な地位を与えました。

私たちは動物ではありません。

私たち人間は、自分の人生を自分の意思によって決定し生きることができます。神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地をはうすべての生き物を支配せよ。（創世記1章28節）私たちは、地球上で生きる物すべての管理者という立場を神から授けられました。私たちは、人間の生き方、そしてその他全ての生き物の生き方を管理・計画する責任を受けました。



私たちは特別な尊厳を与えられた。

神の似姿に作られた人間はただ小サイズの神ではありません。神とともに良い関係（交わり）を持つのは神の相手として作られた人間の目的です。例えば、祈ることで神とのつながりを維持できます。この世がはじまったとき、私たち人間は愛情があふれ、神との完全調和の環境で暮らしていました。

以前は「アイデンティティの危機」などは存在しなかった。

私たちだけが、この世に存在していることに充実感と満足感を感じていたのではなく、神もまた私たちと共にいることに満足していました。私たちも周知の通り、聖書には、人間の創造においては全てが完璧であった。とあります。神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。（創世記1章31節）私たちが楽園で神の指示に従っていた間は、私たちは神と共に幸福で完璧に調和のとれた暮らしをしていました。私たちは世の中で自分たちが誰でどこにいるべきか知っていました。

私たちの現在の状況はまったく違います。しかし、どうしてそうなのでしょう？何が起きてしまったのでしょうか？

5. この世で最もひどい出来事 人が神に反抗する

何が最もひどいことなのでしょう。私たち人間が経験を積むこと？

私たちの新聞やラジオ、またはテレビの見出しの多くは、私たちに世の中がおかしいという事実を再確認させます。権力と不正、社会における混沌とした間違いを遺憾に思うことは簡単です。しかし、それらを非難する前に、私たちは本当の原因について知らなければなりません。聖書で言うと：*アダムが罪を犯した時、罪は全世界に入り込みました。アダムの罪により、死が全人類に広まり、すべての人は年老いて死ぬように定められました。それと言うのも、すべての人が罪を犯したからです。*（ローマ人への手紙 5 章 12 節）



神はたった一つの約束事を与えました

私たちの祖先、最初の間人であるアダムとエバは自由のなかで生きていました。神である主は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ」（創世記 2 章 16-17 節）

神は、私たちがたった 1 つの約束を守り、自由を与えることに値するのかわかめなかったのです。しかし、悪魔はエバをそそのかして、神の言葉に不信感を抱かせ、神との約束を破るようにしむけたのです。そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。（創世記 3 章 6 節）

この瞬間、この世に罪というものがやってきました

守らなければいけない約束と知っておきながら、それを破ってしまったアダムとエバは、そこで神との信頼関係が崩れてしまいました。突如、神と人間との間に壁ができたのです。アダムとエバは神のことを変わらず愛していますが、その瞬間は、神のことが怖かったのです。そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間身を隠した。（創世記 3 章 8 節）神の下は安全で、満足で、幸福であるのに、彼らはその時、彼女の罪による良心の叱責を感じて、怯えていました。

別れは結果でした

神は彼らに、約束を守らないと双方のつながりは切れてしまうと書いていました。そして守れなかった時、それは実行されました。神から離れてしまった瞬間から人は世俗のものとなり、結果として身体的な死がおとずれるようになり、人間の罪深い本質は現在に至るまでのこったのです。しかし、我々がまだ罪人であった時に、神様はキリスト様を遣わしてくださいました。そのキリスト様が我々のために死んだことにより、神様は我々に、大きな愛を示してくださいました。（ローマ人への手紙5章8節）我々という言葉に注意してください。私たちは誰でもその言葉にあてはまります。私たちは罪人で、そして死んでゆくのです。もし、自分には罪がないと言いはるなら、それは、自分をだましているのであって、真理を受け入れようとしない証拠です。（第一ヨハネの手紙1章8節）私たちの人生はこれを証明し、そして、聖書の記述は正しいのです。

私たちの人生は、神が望むようなものですか？

あなたは常に正直で、誰にそして何に対しても愛情豊かで、利己的ではないと言えますか？ また、どんな小さな罪もおかしてないと言い切れますか？ 神は、これらの質問の答えを知っています。そしてまたあなたも。あなたが本当に正直者であるならば。そうです。すべての人は罪を犯しました。神の輝かしい標準にはほど遠い存在です。（ローマ人への手紙3章23節）どの人間も生まれつき罪人です。自然にでる自身の行動・決定によってもそうです。あなたはこの事実に関心し自分自身を照らし合わせる必要はありません。

6. 絶望的な最後

人は罪の奴隷です

救いようのない絶望的な状態

私たちは身体的な病気を診断されると、それについてすぐに説明をもとめます「それは大変なことですか？」と。この質問は、心の病—罪—に対してもしないといけないものです。私たちは、自分たちが「罪人」であると簡単に言えますが、おそらくこれが本当は何を意味しているのか分からない状態で言っています。私たちはみんなに共通するよくある欠点のことを認め、基準から墮落したことをよく言訳を言います。もし、「私たち全員これはするから悪くないはずだ！」と思う人が少なくないのです。けれどもその考え方が本当の問題を解決することが出来ません。私たちが現在いる環境はどんなにひどい状況でしょうか？ 聖書は私たちに将来あるべき姿を教えてください。



聖書には、私たちが完全に悪いとあります

この意味は、私たちが良いことができないという意味ではありません。しかし、あなたは、罪が私たち人間のあらゆる領域に深くはいりこんでいることを感じているはずですよ—私たちの考え、感覚、願望、良心、そして想像においても。人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だが、それをすることができよう。

(エレミヤ書 17章 9節) また基本的な問題

はここではなく、私たちが罪をおかすたびにそれを反省することができるかどうかということ。問題は私たち自身なのです。私たちは何度も何度も罪を犯します。なぜなら私たちはそういう性分をもっているのです。肉欲、盗み、殺人、姦淫、貪欲、邪悪、あざむき、好色、ねたみ、悪口、高慢、あらゆる愚かさ、それらのものはみな、人の心の中からあふれ出ます。(マルコの福音書 7章 21-22節)

神の目からすれば、あらゆる罪は全て悪いのです

聖書の言葉の理念に注目してみると、その言葉や行動は全く異なる人生経験を持つ人々が語っているものです。時々私たちは、罪のイメージを殺人、強盗のような犯罪に制限して考えます。しかし、聖書では「罪」という言葉の意味はひどい行動に限られていません。神に与えられた基準(戒め)から墮落した全部のことが含まれています。私たちが話すこと、すること、そして心の中で考える事柄はすべて完璧ではありません。だが、「私は自分の心をきよめた。私は罪からきよめられた。」とすることが出来るでしょう。(箴言 20章 9節)

罪は神の心と規律に対する反抗のあらわれ

しかし、罪を犯し続ける人は、神様に逆らうのです。罪はすべて、神様の心に反する行為だからです。(第一ヨハネの手紙 3章 4節) どの法律も私たちに、嘘をつく、詐欺をする、悪い知恵を働かせる、もしくは罪を犯すことを強制することはできません。これらのことは私たち自身が自分で行うことです。私たちが神の良い規律に違反して、意識的に罪を犯すのなら、神はそれを見逃すことはありません。神は公平な裁判官です(詩篇 7章 12節) 神は正しい方で、決して罪を見落とすことをしないで、罰を与えなければなりません。ある悪い人たちがまだ生きている間に罰せられます。しかし、最終的に罰を言い渡されるのは死んだ後ある法廷日です。そうです。一人一人が、神様に申し開きをすることになるのです。(ローマ人への手紙 14章 12節)

7. 神のいない未来

人間は神がいなければ、地獄の道へ進む

私たちは死んだ後について、人によって色々と異なる見解があります。死んだらすべてが終わる、消えて無くなると考える人、または、よほどの極悪人でない限り、みんな天国に行けると考える人。そして、人はみな天国に行き、そこで魂が浄化されると考えている宗教もあります。しかし、どれも全て聖書で言われている事実とは違います。

天国と地獄についての神の言葉はまったく異なったもの

人間には、一度だけ死んで、その後さばきを受けることが定められています（ハブル人への手紙9章27節）神を信じ、誠実に生きている人は天国に迎え入れられ、神のもとで永遠に幸福な時を過ごします。反対に、神に背き、罪を重ねる人は地獄で永遠に苦しむこととなります。彼らは永遠の地獄で刑罰を受け、主の前から追放されて、二度と栄光に輝く主の力をみることはないのです。（第二テサロニケ人への手紙1章9節）



地獄は本当に存在する

地獄は教会の作り話ではありません。聖書の中でも、天国のことよりも地獄のことがよく出てくることから、その存在は明らかです。自分は敬虔な信者だと思い込んでいる人たち（実際は、神が主導ではなく、自分たちが決めたルールを重んじている人たち）に、イエス様は聞きました：あなたがたは、地獄の刑罰からどう逃れることができますか？（マタイの福音書23章33

節）これは、彼らが本当に正しいものは何か気づいていないためにあえて聞いた質問です。イエス様は別の機会にも地獄についての話しはしています。本当に恐れなければならない相手を教えましょう。殺したあとで、地獄に投げ込む力を持っておられる神を恐れなさい。神こそ本当に恐れなければならないお方なのです。（ルカの福音書12章5節）

地獄は恐ろしいところ

地獄を描いた絵は沢山存在します。その絵はどれも苦しむ場所を描いています。そこは暗闇と火でできていると言います。炉に投げ込んで燃やしてしまいます。悪人たちは、そこで泣きわめき、歯ぎしりしてくやしがるのです。(マタイの福音書13章42節) これはとても恐ろしいことですが、事実です。地獄では、人は神罰の下におかれるのです。地獄では良いものはなにもありません一助けもなければ、安堵する瞬間もありません。

地獄にその先はない

地獄には出口もなければ、引き返せる道也没有ありません。もちろん脱出もできません。人は死んだあと、天国と地獄を行き来することはできないのです。地獄に落ちたら天国に行けることはありません。逆に天国に行けば、地獄に落ちることもありません。そちらへ行こうにも、間に大きな溝があって、とても行き来はできない(ルカの福音書16章26節) 地獄における恐怖・孤独・拷問は、その人を更生させるためのものではなく、永遠に続く罰なのです。

地獄は人間自身の選りによる

ところが、どうでしょう。あなたは耳を貸そうともしません。強情をはり、罪から離れようとしません。こうして、恐ろしい刑罰をどんどん積み上げているのです。なぜなら、神様が裁判官として立ち、すべての人を正しく裁かれる、御怒りの日が近づいているからです。神様は、一人一人に、その行いにふさわしい報いをお与えになります。(ローマ人への手紙2章5-6節) 天国に行くか地獄に行くかは、あなた自身の選りによります。イエス・キリストを拒絶することは、神の意思に背くことなので、天国には行けません。あなたが神の存在を認めない人生を送りたいなら、神はそれを受け入れます。しかし、地獄に落ちてから神に不平を言うことはできません。

不安それとも愛?

時々クリスチャンは、罪と地獄について話すことで、あなたを不安にさせているかもしれない。神は何をすべきでしょうか? 神は人間を不幸に走らせるべきですか? それは愛でしょうか? 神の意思について聖書にはこう書かれています: **すっかり心を入れ替えて神様に立ち返りなさい。そうすれば、神様は罪をきよめてくださいます。**(黙示録3章19節) 地獄について知識のある人として、自分の将来について考えなければならぬのではないのでしょうか。

8. 信仰深さだけでは十分ではありません

イエス・キリストを信じるのが大切なのです

私たちは間違ったものを信仰する信者

すべての文化において、私たちは自由を求め、それに必要な神のような存在をいくつも作り上げています。太陽、月そして星を信仰の対象にしてみたり、火や水、そして木や石、鉄でつくられた絵、魚や鳥などの動物も文化によっては信仰の対象になっています。人間は無数の神々を崇拝しています。さらに、お金や愛にまつわる事や物、場所もすぐ神とされ信仰の対象になります。*わたしが見回しても、だれもいない。彼らの中には、わたしが尋ねても返事のできる助言者もいない。見よ。彼らはみな、偽りを言い、彼らのなすことはむなしい。彼らの鑄た像は風のように形もない。*（イザヤ書 41 章 28-29 節）



間違ったものを信じているのなら、信心深くても罪をけすことはできません。

宗教団体の役割は人々を神とつながるわけです。しかし人間の努力で神とつながることを教える団体は失敗します。人間のベストでも物足りないだからです。完全でないと神の目に足りないですから。どこの素晴らしい行動、社会的、宗教的（献金、お祈り、礼拝を守ることなど、人間の努力によって一つの罪も許されません。

良い行いをしたからといって、悪い行いが相殺されるわけではない

もし、神の考えを知り、神の加護のもとにいたいのなら、イエス・キリストを信じるのみです。*救いは、私たちの良い行ないに対する報酬ではありません。ですから、だれ一人、それを手柄として誇ることはできません。*（エペソ人への手紙 2 章 9 節）

間違った信仰は、人の罪深い性質を変えることはできない

私たちの「ふるまい」は何も変えることはできません。それはただの見せかけだからです。教会のミサに出席したり、宗教的なイベントに参加すると、私たちの気持ちは救われた気持ち、もしくは何かしらの満足感に満たされるでしょう。しかし、これらのことでは、私たちの性質を変えることはできません。*だれが、きよい物を汚れた物から出せましょう。だれひとり、できません。*（ヨブ記 14 章 4 節）

素晴らしいーそれは十分ではない

キリスト教会の礼拝に行くこと、聖書を読むという行為は間違っていない。例えば、日曜礼拝に行き、聖書を読み、神に祈ることは正しいことです。神は私たちがそれをするを求められています。しかしそのことによって人がクリスチャンになることだ出来ません。

9. 神は私たちとコンタクトをとります

イエス・キリストは唯一の存在である

私たちは自分自身すら救うことができないのに、どうやって天国に行くことができるのでしょうか？ 方法がありますか？ この質問に答えるためには、どうしてイエスは死んだのかということを理解する必要があります。そして、彼の死が私たちの何のためであったかも理解する必要があります。



神は公平に、私たちの罪は罪として罰します

しかし、聖書では、**神は愛**（第一ヨハネの手紙4章8節）とあります。神は罪を嫌い、しかし神は罪人を愛し、彼らの罪を赦したいのです。罰が私たちの精神的・身体的死をさすなら、私たちはどのようにしてこれらから逃れることができるのでしょうか？ この問題は神のみが解決することができます。そして神は解決策をイエス・キリストをお見せになりました。さらに私たちは、**神様がひとり息子を世の救い主として遣わされたのを、この目で**

実、それを、今全世界に伝えています。（第一ヨハネの手紙4章14節）

神の子は人間になった

イエスは完全に人間でしたが、それでも彼は神聖な存在でした。**なぜなら、キリスト様のうちにこそ、神様の性質のすべてが、肉体をとって宿っているからです。**（コロサイ人への手紙2章9節）イエス・キリストは唯一無二の特別な存在。聖書はこれを幾度となく語っています。

彼の出生は特別なものでした

イエス・キリストは人間の父をもっていません。イエスは処女の身体に神聖な力によって誕生しました。聖霊様があなたに下り、神様の力があなたをおおうのです。ですから、生まれてくる子供は聖なる者。神の子と呼ばれます。（ルカの福音書1章35節）

イエス・キリストの言葉は特別なものでした

ここでもまた、人々はイエスの教えに驚きました。イエスが自分を権威づけるために、むやみに他人の意見を引用するのではなく、真理を知っている者のように語られたからです。（ルカの福音書4章32節）

イエス・キリストの奇跡は素晴らしいものでした

イエスは、何が彼についての正当性を示すものかと尋ねられたとき、彼は彼の言動について言及しました。盲人は見えるようになり、足の立たなかった者が今は自分で歩けるようになり、らい病人が治り、耳の聞こえなかった人も聞こえ、死人が生き返り、そして、貧しい人々が私のすばらしい知らせをきいていることなどを。（マタイの福音書11章5節）

イエス・キリストの人生は特別なものでした

この大祭司は、私たちと同じ試練に会われたので、人間の弱さをよく知っておられます。しかしただの一度も、誘惑に負けて罪を犯したことはありません。（ヘブル人への手紙4章15節）最後に聖書は、イエスが人としてあらゆる関係において神の規律を違法したことを証明しています。したがって、彼は罪（死）に対する処罰を受ける必要はありませんでした。しかし間違った告発により捕らえられ、虚偽の声明により有罪とされ、エルサレムの丘の近くで十字架にかけられました。しかし彼の死は不運な事故ではありませんでした。神様は、あらかじめ計画したとおり、この方を、あなたがたの手でローマ政府に引渡し、十字架で処刑することをお許しになりました。（使徒の働き2,23）父である神はイエスと共に、彼が罪人たちの罰を彼の意思で自分自身が受けることを決めたのです。メシヤ（救い主）のわたしでさえ、人々に仕えられるためではなく、みんなに仕えるためにこの世に来たのです。そればかりか、多くの人の罪の代償として自分のいのちを与えるために来たのです。だからあなたがたも、わたしを見なさい。（マタイの福音書20章28節）

イエス・キリストの死は、彼の人生と同じくらい意味のある特別なものでした

イエス・キリストの救済の方法は、聖書のこれらの引用で理解することができます：
実に神は、ひとり子をさえ惜しまず与えるほどに、世を愛してくださいました。それは、神の御子を信じる者が、だれ一人滅びず、永遠のいのちを得るためです。（ヨハネの福音書3章16節）ところで、イエス・キリストの生涯については、新約聖書の最初の4項目、マタイの福音書・マルコの福音書・ルカの福音書・ヨハネの福音書で知ることができます。

10. 神の愛は見えるようになる

イエス・キリストは私たちに全てを与える

イエスについて沢山の話を私たちはすることができます。彼が起こした沢山の奇跡、真理をついた人生など。しかし、最後には、彼がやったことは全て彼の死と復活に目指しています。なぜ聖書に最後の出来事に重点を置くのでしょうか。なぜ聖書にはイエスの死について沢山のことが書いてあるのでしょうか。なぜなら、彼が私たちの身代わりに死んで、私たちの罪を背負って、私たちをそのことを通して救ったからです。



イエス・キリストは私たちの代わりに死にました

神聖な神の前では、神は全ての罪人に同じ罰をしかし、私たちは罪を科せられますが、聖書を読むことによって、その罪から開放される方法を知ることができます。しかし、私たちがまだ罪人であった時に、神様はキリスト様を遣わしてくださいました。そのキリスト様が私たちのために死んだことにより、神様は私たちに、大きな愛を示してくださいましたのです。（ローマ人への手紙5章8節）神の息子は、

この奇跡的な救いを自らおこなってくれました。彼は、私たちの罪を背負うために、私たちの場所に来てくれたのです。キリスト様も苦しめられました。一度も罪を犯したことの無い、潔白な方であったにもかかわらず、私たち罪人のために一たび死なれたのです。それは、私たちが確実に神様のもとに導くためでした。（第一ペテロの手紙3章18節）ここに、神の愛情があらわされています。

イエス・キリストは私たちの罪を背負って死にました

ここで神は、キリストの死は用意されていたものではないことをみせています。罪の罰はすべて払拭されなくてははいけません。イエスは卑劣な拷問に苦しみました。十字架にかけられたとき、彼は叫びました：**わが神、わが神。どうして私をお見捨てになったのですか？**（マルコの福音書 15 章 34 節）この恐ろしい瞬間、最愛の息子に神は背をむけました。これは、分離の罰で苦しまなければいけなかったからです。イエスが私たちのもとに来て以来、彼は私たちの罪に対する責任を全て背負ったのです。その罪の罰を受けなくてははいけなかったのです。

イエス・キリストは私たちを救うために死にました

イエス・キリストは死んで 3 日目に生き返りました。彼は私たちの罪をすべて受け止め、払拭してくださったのです。**しかも、死んでのち復活することにより、神様のきよい性質（聖霊）を備えた、力ある神のひとり息子であることが証明されたのです。**（ローマ人への手紙 1 章 4 節）これによって、私たちの救いの道は作られたのです。さもなければ、私たちは地獄で永遠に苦しむことになったでしょう。

しかし、何があなたと関係ありますか？ どのようにして神について理解しますか？ イエスはどのようにしてあなたを救うのでしょうか？

11. 私の決意

救われる

救いを受けたいですか？

あなたは神の秩序に沿っていますか？ 何か自分には不足していて、自身で神に救われたいと感じているのなら、**罪から離れ、主イエス・キリストを信じて神様に立ち返らなければなりません。**（使徒の働き 20 章, 21 節）

神に立ち返る

それはまったく新しい命のセッティングです。あなたはあなたの心構えの変化が必要です。まず、自身が神聖で優しい神に反抗した罪人であることを認めなければなりません。心の変化も必要です。あなたの罪の不埒について心からの狼狽と恥を知らなければなりません。それからあなたは、新しい人生を歩み始めるために、罪を全て神の前でさらさなければなりません。神は人間に改心し、神に立ち返ることを求めています。**ダマスコを手始めに、エルサレム、ユダヤ全国、さらに外国人にも、すべての人が罪を捨てて神様に立ち返り、それを良い行いで示さなければならぬ、と述べ伝えてきました。**（使徒の働き 26 章 20 節）



立ち返りとは：新たな方向を見出す

神が求めるような生き方を心から追い求めます。これは、心で神の意思を知るという意味です。シモン・ペテロが答えました。「あなた様こそ、キリスト（救い主）です。生ける神の子です」（マタイの福音書 16 章 16 節）だからこそ、心から、イエス・

キリストが彼の人生を私たちのために使ってくださいましたことを信じるのです。私たちが逃れる道もなく、全く窮地に陥っていた、まさにその時、キリスト様はおいでになり、何の役にも立たない、私たち罪人のために死んでくださいました。（ローマ人への手紙 5 章 6 節）

転換

あなたの誇りと罪深さが、あなたに、あなた自身が持つ倫理観とあなたが望む信仰を信じて行く道が正しいと思込ませるのです。しかし、あなたには選択の余地はありません。あなたが本当に信じてついて行くべきものはキリストだけです。彼だけがあなたを救うことができます。また、ご自分を通して神様のもとに来る人々を、一人残らず、完全に救うことができになります。永遠に生きておられるイエス様は、いつも神様のそばで、ご自分の血によって彼らの罪が帳消しになっていることを、神様に思い起こさせてくださいるのです。（ヘブル人への手紙 7 章 25 節）

叶えられる願望

もし、あなたは神様に主の救いの道を示した結果でイエス・キリストを救い主として受けたい心を与えられたら、今すぐにできます。これはどのようなすればいいのでしょうか？ あなたは、神の前であなたが罪人であると認め、イエス・キリストに救ってくださいることを心から願うのをお祈りで神様の前に言い表す。

誠実な祈り

神様、今まで私は、罪人であるがために、あなたから離れて生きてきました。どうか私に私の罪を与えてください。イエス・キリストが私の罪のために死に、生き返った事実に感謝しています。私は今から、あなたが私の人生の真ん中にいてくださることを願います。あなたの愛に感謝します。アーメン。

神は約束を守ります

なぜなら、もし自分の口で「イエス・キリストは私の主です」と告白し、自分の心で、神様はイエス・キリストを死人の中から復活させてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。（ローマ人への手紙 10 章 9 節）キリストを救主として心から信頼する人を神は認めます。その信頼する気持ちがあれば約束は守られます。

12. 新しい人生を楽しむ

クリスチャンとしての最初の一步

あなたがイエス・キリストを信じたとき、あなたは神の前で生まれ変わったこととなります。あなたが神との間に完璧な関係を持つことを、聖書では「正しくされた」といいます。

あなたは神と共にいるかぎり、心はいつも平穏です。

そうなった時、どんなことが起ころうと失望落胆せず、また、万事が益であるとわかります。それは、神様がどんなに深く愛してくださるか、わかるからです。私たちは、そのあたたかい愛を全身で感じています。それは、神様が聖霊様を与えてくださり、その聖霊様が私たちの心に、神様の愛を満たしてくださっているからです。（ローマ人への手紙 5 章 5 節）

あなたの罪はキリストによって赦されます。

もちろんイエス様のことは、今までのどの預言者も、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪が赦されると証言しています。（使徒の働き 10 章 43 節）



あなたは神の子どもです。

この方を受け入れた人はみな、この方から神の子供となる特権をいただきました。それにはただ、この方が救ってくださると信じればよかったです。（ヨハネの福音書 1 章 12 節）

あなたたちの永遠は保障されている。

こういうわけで、今やキリスト・イエスに属する人は、有罪の宣告を受けることがありません。（ローマ人への手紙 8 章 1 節）

神は聖霊という形であなたの心にすむようになりました。

キリスト様がなしとげてくださったことのおかげで、あなたがたも、救いを約束する良い知らせを聞き、キリスト様を信じるようになりました。そして、キリスト様に属する者であるという証印を、聖霊様におしていただきました。この聖霊様については、ずっと以前から、クリスチャン全部に約束されていたことです。（エペソ人への手紙 1, 13）これは素晴らしいことではありませんか？これから信仰的に成長することは出来ます。・・・また、以下の 4 つのポイントは特に重要です。

祈り—毎日神と話をしてください。

あなたが神と話をすることを、神はとても嬉しく思っています。神はあなたの友人として、父として、あなたのあらゆることに興味をもっておられます。神に話してみてください。あなたの家族のこと、仕事のこと、友達のこと、心配事や希望を。そして、もし何か失敗したときは、神に赦しを求めてください。神は常にあなたの言葉を聞き、あなたのために力を与えてくれます。神の子である私たちは完璧ではありません。しかし、神に赦しを求めることができます。もし、自らの罪を神様に告白するなら、神様は間違いなくそれを赦し、すべての悪から清めてくれます。（第一ヨハネの手紙 1 章 9 節）決まった時間や場所で祈る必要はありませんが、それが神の声や意思を知るのに役立つこともあります。祈りのなかで神はあなたに贈り物をしたいのです。なので、定期的に祈りましょう。

聖書 - 神の言葉であなたの人生の基礎をつくります。

神は、神の心の中にあるものをあなたに知らせたいと思っています。神は異なる方法でそれを知らせることができますが、特に、聖書を読むことで、それをよりよく知ることができます。その内容は、神とは何たるものか、そして神があなたのために立ててくださった良い計画がどのようなものであるかです。日々の生活の中で、主に喜ばれることか何であるかを見分けなさい。（エペソ人への手紙 5 章 10 節）まず手始めに、新約聖書のルカの福音書を読み始めてください。その後、ローマ人への手紙を読んでください。その中に私たちの人生の意義・目標が明確に書かれています。神の言葉を読んでいる間、あなたの心は神聖な心へと導かれていきます。あなたはそれを続けることで、もっとたくさんの人生についての大切なことを理解するでしょう。



コミュニティー（キリスト教会）—あなたの信仰生活を支えるクリスチャンを探してください。

神は、私たちが孤独にたった一人で人生を戦い生き抜くことを望んではおられません。他のクリスチャンと共に愛あふれる関係を築きあげて皆で人生を共に過ごしてもらいたいと望んでおられます。あなたたちは互いに学び、共に神の言葉を聞き、一

緒に神への愛情のメッセージを他の人へと伝達していくのです。神の子供達は互いを必要とします。したがって、クリスチャンのコミュニティー（キリスト教会）に参加し、そこで、神があなたに与えた賜物と能力を用いることが出来ます。ほかのイエスを主として受け入れた人との関係（交わり）は神様が大切に考えます。教会員としての義務を怠ったり、集会を休んだりする人たちにならってははいけません。主が再びおいでになる日は、もう間近なのですから、互いに励ましあい、忠告し合いましょう。（ヘブル人への手紙 10 章 25 節）

奉仕—クリスチャンとしてあなたの人生で変化したことをみせてください。

あなたの神、主が、あなたに求めておられることは何か。それは、ただ、あなたの神、主を恐れ、主のすべての道に歩み、主を愛し、心を尽くして、精神を尽くしてあなたの神、主に仕える、（申命記 10 章 12 節）主に喜ばれることは生涯の動機と最高の目的になってきます。そうなら主に仕える者が与えられた賜物を主と人のために使います。私たちがこのように造り、キリスト・イエスによる新しい生活に入れてくださったのは、神様です。この新しい生活は、神様がずっと以前から計画してくださったものであり、私たちが互いに助け合って過ごすためのものです。（エペソ人への手紙 2 章 10 節）他の人たちに、神があなたのために何をしたかを話してください。これは義務的ではなく、心からあふれる喜びから出る良い経験になります。しかし、あなたがたは、そうではありません。あなたがたは、神様から選ばれた王なる祭祀であり、きよい民として、神様のものとされた人たちです。それはすべて、どうして自分が暗やみから神様のまばゆいばかりの光へと招き入れられたかを、人々に語り伝えるためなのです。（第一ペテロの手紙 2 章 9 節）

Impressum

Aktion: In jedes Haus e.V. (AJH)

**Hausanschrift:**

Telegrafstraße 25
42477 Radevormwald

Postanschrift:

Postfach 1120
42460 Radevormwald

Telefon: +49 (0)2195-91560

E-Mail: ajh@ajh-info.de

Internet: www.ajh-info.de

Evangelistische Seite: www.entdecke-neues.de

Internationaler Bibelgrundkurs: www.the-good-news.de

Übersetzung:

翻訳者 Keiko Graziadio

Bildnachweis:

Titelbild: Fotolia-66424228-iordani

Lektion 1: [pixabay-804939](#); Lektion 2: [pixabay-787253](#); Lektion 3: [pixabay-113401](#)

Lektion 3: [pixabay-419057](#); Lektion 4: [pixabay-430557](#); Lektion 5: [pixabay-764983](#)

Lektion 6: [pixabay-665591](#); Lektion 7: [pixabay-58212](#); Lektion 8: [pixabay-169238](#)

Lektion 9: [fotolia-66892376-©Romolo Tavani](#); Lektion 10: [fotolia-76972189-©Alberto](#)

[Masново](#); Lektion 11: [fotolia-82725689-©Gina Sanders](#); Lektion 12: [fotolia-66573128- HYPERLINK "https://de.fotolia.com/id/66573128-vinogradov_il"© HYPERLINK "https://de.fotolia.com/id/66573128-vinogradov_il"vinogradov il](#);

Lektion 12: [fotolia-78455410-©mariesacha](#)

Copyright © „Aktion: In jedes Haus“, Radevormwald. Sprache: Japanisch